

保育現場で必要とされる音楽能力と、 幼児音楽教育との関連

中野 研也・河野 久寿

(2012年1月31日受理)

1. はじめに

今も昔も、幼稚園・保育園を始めとする保育現場では、音楽が盛んに用いられている。歌の時間、合奏の時間のみならず、「おはよう」「いただきます」「おかたづけ」「おかえり」など、子供たちが何をするにおいても、そこには高い確率で音楽が関わってくる。また、それは「生演奏」によることが大変多い。その生演奏とは多くの場合、先生の弾くピアノに合わせて、幼児が歌ったり踊ったり、簡便な楽器を演奏したりするというものである。子供たちは幼稚園や保育園にいる間、まさに「音楽と共にある」と言ってもよい。

このような、保育現場で行われる様々な音楽活動において、その「要」となるのが、「せんせい」こと保育士の弾くピアノである。

多くの子供たちにとって、物心ついて最初に触れる「生」の音楽が、幼稚園・保育園にあるとすれば、その品質は重要である。ましてや、その音楽が子供たちの活動一つ一つに関わってくるとあっては、「せんせい」のもつ音楽能力の良し悪しが、時として子供たちの園における生活リズムさえ左右しかねない。たかが音楽されど音楽である。そして、多くの「せんせい」たちは、音楽の専門家ではない。

では、保育現場において現実に必要とされる音楽能力とは、どのようなものであろうか。

2. 現 状

保育現場で必要なピアノの演奏能力を育成する

ため、本学幼児教育学科においては「器楽Ⅰ」と「器楽Ⅱ」の2科目が設定されている。まず「器楽Ⅰ」でピアノ演奏の基礎的な技術を習得したのち、「器楽Ⅱ」で弾き歌いの能力を養う。またそこで学んだ楽曲はそのまま本人のレパートリーにしていけるシステムとなっている。

ところが近年の入学学生の多様化に伴い、履修内容の履行が困難な学生の割合が増えてきている。特に、ピアノ演奏の基礎的な技術を学習する「器楽Ⅰ」の履修内容および履修規定が、ピアノ初心者への対応という意味で、実情に合わなくなってきた。これまで、カリキュラムの見直しについては再三議論されてきたものの、難易度を下げれば、現場へ送り出される学生のレベル低下を招くとして、据え置きのまま今日に至っており、所定の課題を1年間では終了できない学生をいわずらに増やすばかりであった。

そこで、保育現場において必要とされるピアノ演奏技術とはどのようなものであるか考え直し、より実的な音楽能力を備えた学生を育成するためには、幼稚園および保育所における音楽教育の実態と、具体的な要望を知る必要があると考え、福井市を中心とした県内の幼稚園・保育園に対してアンケート調査を実施するに至った。

3. アンケート調査の目的と質問項目の設定

まず始めに、当アンケート調査の目的は、本学幼児教育学科における「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」の教育内容改善にある。むろん、保育士に求められる音楽能力は、ピアノのテクニックや歌唱力だけではない。リトミック指導的な能力や、音楽性とは

別に「指導力」も大切であろう。しかし今回実施のアンケートは、その目的がピアノ初心者への対応を主とした履修規定の見直しにあったため、質問の内容はピアノ演奏を始めとした技術に関するものと、保育現場で行われている音楽活動そのものにと限定し、下記の項目を設定した。

質問①（選択および自由記述）

幼稚園・保育所において必要な音楽能力とは？

質問②（選択および自由記述）

どの程度の曲が弾けたらよいか？

質問③（選択および自由記述）

先生方に質問②程度の能力があるかどうか？

質問④（選択および自由記述）

現場でのピアノ演奏で重視されるべき点は？

質問⑤（選択および自由記述）

現場での歌唱について重視されるべき点は？

質問⑥（自由記述）

どの楽譜を使用しているか？

質問⑦-1（選択）

園児による合奏の発表等があるかどうか？

質問⑦-2（選択および自由記述）

合奏の発表がある場合、その形態は？

質問⑦-3（自由記述）

合奏において、工夫している点は？

質問⑧（自由記述）

ピアノ演奏力や歌唱力以外に、あると良いと思われる能力は？

質問⑨（自由記述）

本学の幼児音楽教育で、改善・強化を望まれる点は？

以上

4. アンケート集計結果とその活用

アンケートは福井県内の幼稚園・保育園200箇所に依頼し、150通の回答があった。基本的に解答は園の代表者をお願いしている。四択五択の質問項目の他に、自由記述欄をいくつか設けた。

では、まず調査結果を列記した後、授業への活用について記述する。尚、字数の関係上、異口同音の回答（自由記述）については、できる限り1つにまとめた。

質問①

ピアノ演奏や歌唱等、幼稚園・保育所における必要な音楽能力とは、どのようなものとお考えでしょうか？

A	ピアニストや歌手のように美しく演奏できること	2
B	平易な弾き歌いができること	128
C	楽曲のアレンジ能力例) メロディーだけの譜面に伴奏がつけられる、等	69
D	音楽能力はとくに重要視していない	5
E	その他	9

【自由記述】

- *教育の中に、音感教育がない
- *得意な分野を自分の能力として、保育に活かすことが大切のように思う。“これだけは必ず伝えたい”という気持ちが大切。
- *様々な曲が持つメロディーやリズム感に合わせて、自由に表現する力や表現豊かな感性
- *楽譜が読めて、ピアノ・オルガン等の楽器が使える人
- *コードを見て弾ける力があるとよい。伴奏がサッとつけられることが理想。
- *様々な曲を知っていること
- *音楽の楽しさを伝えてほしい。そのためには、音楽が好きで音楽の素晴らしさを伝えてくれるような感性とテクニックが必要になってくると思う。
- *木琴や太鼓などの演奏ができ、合奏の譜面が作れること。

質問②

ピアノの演奏能力についてお訊きます。
具体的に、どの程度の曲が弾けたらよいとお考え
でしょうか？

A	バイエル100番程度	53
B	ブルグミュラー 25の練習曲程度	57
C	ツェルニー 100番練習曲程度	23
D	ソナチネ程度	29
E	モーツァルト、ベートーヴェンのソナタ、 ショパンのワルツ程度	2
F	その他	6

【自由記述】

- * 音符も読めないようでは困る。
- * 間違わずに正しく弾けること。
- * 項目Eの能力があり、それを子どもたちに聴かせる音楽指導は大切だと思う。保育士では難しいが、音楽学科の授業やボランティア活動などの取り入れを希望する。
- * 子供の作った歌に即メロディーに替えてあげたり、まとめるための（自然に集まってこれるような）楽しいリズムを適切に提供できる能力
- * 教則本の段階ではないので、少ない練習でもすぐ弾けることのほうが重要
- * いろいろな曲を上手く弾けるのに超したことはないが、まず基本として歌の伴奏ができないと保育現場では本人が困るし、子どもたちにとってもマイナスとなる。

質問③

貴幼稚園・保育所におかれまして、先生方はその能力を十分に備えているとお考えでしょうか？
また、もし改善できる点があるとすれば、どのような部分の改善を望まれますか？
(回答はいくつでも)

A	歌や合奏の伴奏等、ピアノ演奏に関して	88
B	歌唱力に関して	14
C	ピアノ演奏テクニックと歌唱力のどちらとも	40
D	その他	16

【自由記述】

- * 個人差があるため、一概には言えない。

- * ただ上手く弾ける能力よりも応用できる能力を重視するべきである。
- * 日々練習し能力を磨いている。能力のある人に全てをまかせることはしていない。
- * 教諭自身が改善していこうとしているので、特別何もない。
- * 個人差があってよいので、全ての保育士にピアノ演奏や歌唱力を求めることはしない。園に一人か二人、得意な人がいればいい。オールマイティーの保育士もよいが、何かそれぞれに得意があると園内の保育全体が楽しくなる。
- * 現時点では充分とは言えない。個人差が大きい。
- * 合奏の指導力
- * 十分に備えているので今のままでよい。
- * 歌唱力も大切だが、まずはピアノ演奏のほうが優先されると思う。
- * 歌って聞かせてあげることもとても大事なことで、やさしい歌声、声の出し方なども大切。
- * 読譜力
- * 合奏の譜面づくりと指導。

質問④

現場でのピアノ演奏について、どのような要素を重視したらよいとお考えでしょうか？
(回答はいくつでも)

A	歌唱や合奏の伴奏等における演奏の円滑さ、演奏テクニックの部分	109
B	テンポやリズムの正確さ	88
C	曲の性格を適切に捉える能力、または感性（適切なテンポ設定等）	86
D	読譜力、あるいは新しい曲の習得速度	67
E	その他 よろしければ具体的にお書き下さい（例：音感の改善等）	7

【自由記述】

- * 歌う楽しさを教師自ら表現し、一緒に歌う喜びを感じ合う
- * 子どもたちが、心から楽しく元気に歌うための伴奏がつけられること。
- * リズムを正確に。
- * 左手伴奏部分が不協和音とならないような和音の付け方 → 感じる耳を持って欲しい。
- * 演奏が中断しないことが先決！

- * 我流の演奏を幼児に聴かせては困る。演奏はあくまでも適切でなければ幼児の感性に悪影響を及ぼす。
- * 応用力。子どもたちの表現に合わせて柔軟に対応できる力。
- * いくら技術が素晴らしくても子どもと共に楽しむなくてはダメだ思う。
- * 季節にあった曲を2～3曲はすぐに弾けるよう努力して欲しいです。
- * アニメの曲など、子どもたちの好きな曲もレパートリーに入れて練習してきて欲しい。
- * 子どもが歌ったり演奏しやすいように工夫すること。
- * 間違えても止まらないように弾くこと。簡単なもので良いので、自分なりにアレンジして弾ける能力。
- * こどもの歌うテンポや声域に合わせて、伴奏のテンポやキーを変えられる能力があると良い。
- * 特に改善の必要はない

質問⑤

現場での歌唱について、どのような要素を重視したらよいとお考えでしょうか？
(複数はいくつでも)

A	音程の正確さ	113
B	声の大きさ	60
C	リズムの正確さ	94
D	表情の豊かさ	105
E	その他 よろしければ具体的にお書き下さい	7

【自由記述】

- * うたあそびは楽しければよいという考え方もあるが、やはり幼い子供にとっても、流れるようなメロディー、テンポ、美しい歌声は必要。本物に触れたとき子どもたちの心に響くものがあり、感性が育っていく。
- * 楽しんで歌うことがいちばんで、次にいろいろなことが要求されていくと思う。
- * 歌+身体表現や伴奏なしでもいつでもどこでもできる手あそびが沢山できるとよい。
- * わらべうたや手あそびをしているとき、音程の

取り方が違うと子どもに変に伝わってしまうことがある。

- * 音がずれてもいいから、その歌を自分のものにして、自信を持って笑顔で歌うことが大事だと思う。
- * 曲の内容を子どもが実感して歌えること
- * 小学校の先生から、幼稚園のうたは大きな声で元気よく歌っているのはよいが、怒鳴り声にも聞こえるので、もう少し綺麗な声で歌えないかと言われると、どのように声の出し方を指導したらよいかと悩む、そういう指導法を短大の時に教えて下さったらよいと思う。
- * こどもがその歌に親しみ楽しんで歌っているか
- * いろいろな曲を、こどもが喜んで歌える雰囲気作りをしてあげられることが大切だと思います。
- * 歌う場所、子どもの人数、年齢、曲によって、声の大きさや表情を変え、子どもたちが歌のイメージが広がるよう心掛けるとよい。

質問⑥

音楽に関して、先生方はどのような教材・楽譜をご使用されていらっしゃるか、具体的に教えてくださいませんか？

(例：子どものうた200、等)

複数の園で使用されている楽譜	
母とおさなごのうた	39
子どものうた200	35
こどものうた12か月	22
子どものうた100	10
現代子どものうた1000曲シリーズ (全10巻)	10
NHKみんなのうたシリーズ	10
園で独自に作成 (コピー含む)	8
続子どものうた200	7
子どもさんびか	4
子どものうたベストテン	4
幼児のための音楽カリキュラム (春夏秋冬)	4
こどものうた175	4
子どもの歌曲200選	3
こどものうた154	3
NHKこどものうた楽譜集	3
阿部直美の初めてでも弾ける保育ソング101	3

おかあさんといっしょ ピアノ・ソロアルバム	3
あそびうた100	2
NHKお母さんといっしょヒット曲集	2
子どものうた大百科300	2
保育名歌200選	2
保育雑誌の付録等	14

その他-① (出版社が分かるもの)	
子どものうた、音楽リズム集 (貴校音楽集)	
短大の時に大学側がまとめて下さった楽譜	
保育名歌200選 (ドレミ)	
保育ソング101 (世界文化社)	
幼児のうた100選 (全社協)	
うたってひける子どもの世界 (kmp)	
音楽広場 (クレヨンハウス)	
つながりあそびうた (音楽センター)	
幼児保育の歌とリズム (音楽之友社)	
幼稚園・保育園で覚える歌 ベスト100曲集 (全音)	
たのしく遊べるこどものうた (すずき出版)	
入園と小学校からうたえるこどもの歌 (KYODO-MUSIC)	
自然とうたおう!、楽しくうたえる英語のうた (成美堂出版)	
新沢俊彦、中川ひろたか作詞作曲楽譜 (音楽之友社)	
こどものピアノ名曲集 (コンセル)	
こどもの楽しい器楽合奏 (デプロ)	
ピカリ・ユズりん (ひかりのくに)	
あたらしいこどものうた③ (ドレミ楽譜出版)	
クレヨンハウス：音楽広場シリーズ	
子どものどうようスペシャル (デプロMP)	
新こどものうた大全集 (デプロ)	
こどものピアノ大全集 (デプロ)	
幼児のうた (金津町幼稚園研究会)	
武生市公立幼稚園作成の「幼児のうた」①②③	
幼児の歌 (1) (2) (3) (越前市幼稚園職員編集)	
リトミック百科 (ひかりのくに)	
年齢別合奏楽譜百科 (ひかりのくに)	
合奏楽譜百科 (ひかりのくに)	

質問⑦-1

園児による合奏の発表等がありますか？

A	ある	125
B	ない	24

質問⑦-2

質問⑦-1で「ある」とお答え頂いた方にご質問です。

どのような形態で行っていらっしゃいますか？
(使用楽器、演奏曲目、編成など)

【合奏形態 典型的な一例】

3歳児：タンバリン、鈴、カスタネット等の打楽器のみ

4歳児：ピアノカおよび打楽器

5歳児：ピアノカ、マリンバ、太太鼓、小太鼓、ボンゴ、コンガ、ハイハット、シンバル、ティンパニー、モンキータンバリン、ギロ、マラカス、水笛、等

その他使用楽器

シロフォン、メタルフォン、グロッケン、太太鼓、スネアドラム、ペーパーシンバル、バスマスター、キーボード、ピアノ、ウッドブロック、カウベル、オムニユード、トライアングル、ピアノカ、ハンドベル、バーチャイム、等

【曲目】

軍隊行進曲、トルコ行進曲、赤鼻のトナカイ、サンタが町にやってくる、たきび、キラキラ星、あわてんぼうのサンタクロース、ミッキーマウスマーチ、おもちゃのチャチャチャ、ガヴォット、ハイ・ホー、ちやいろの小びん、クシコスポスト、クリスマス、ひな祭り、春をよぶもの、マーチング・マーチ、世界にひとつだけの花、どきどきどん1年生、アイアイ、元気に歩こう、コンドルは飛んでゆく、白熊のジェンカ、さんぽ、山の音楽科、オブ・ラ・ディ・オブ・ラ・ダ、聖者の行進、タンポポ兄弟どこへいく、アイネ・クライネ・ナハトムジーク、ラデツキー行進曲、その他

質問⑦-3

園児による合奏において、何か特に工夫されていますか？

- *全員がどの楽器でも演奏できるようにしている。
- *持ち方、打ち方をしっかり知らせる
- *打つリズムが複雑にならないようにしている
- *曲を繰り返し聴かせ、曲想やリズムを自然に覚えられるようにする

- *ちびっ子コンサートに出掛け、本物の音楽に触れ、心地よさを感じる
- *子どもたち同士の励ましを大切に、全員が達成感が持てるよう工夫している。
- *リズムがとりやすいように、ふだん歌う歌でも手拍子を採り入れている。
- *リズムをきちんととって楽しく演奏すること
- *難しいところを易しく編曲する
- *どの子も一度はどの楽器にも触れて遊んでから演目に進むようにしている
- *子どものとりやすいリズムの曲を選択する
- *各年齢にあった楽器を担当すること
- *特定の子だけが目立ってしまわないようアレンジする
- *子どもたちの力にあった選曲
- *子どものに分かりやすくリズムを言葉に替えて伝える
4分音符タンタンタン→バナナ、など
- *音符で教えるのではなく絵譜面で楽しくリズムを覚えていく。
- *たたく場所が分かるように歌の歌詞にそれぞれのパートごとの色をつけている。
- *打楽器を多くしない
- *合奏だけでなく、その歌にも親しむようにしている。

質問⑧

- ピアノ演奏能力や歌唱力以外に、どのような能力を身につけたら良いとお考えでしょうか？
(例：コンピュータによる編曲や編集能力、等)
- *ギターなど、戸外でも演奏できるようなものが弾けるとよい。
 - *子どもたちと楽しめる人間性
 - *演奏能力や歌唱力がきちんと身につけていれば、現場では充分
 - *編曲能力がもう少しあればよいと思います。
 - *教師の音楽に対する感性は重要だと思う
 - *ギター、太鼓、琴、マリンバなどの自分の趣味を活かした楽器演奏や、民謡やいろいろな舞踊もよいのではないかと思う。
 - *パソコンで曲を編集する能力
(現場では未だラジカセを使用。パソコンで曲

を編集できるスキルがあると譜のつなぎも綺麗でよいと思う。

- *作曲能力：劇あそびの中にうたを入れるとより楽しく盛り上がることもあるので、子どもの歌しやすい音程で簡単な曲を作れるとよい。
- *和太鼓の基本
- *曲を移調する能力
- *コードを覚え、難しい曲などでもコードですぐ弾けるとよいと思う。
- *音楽教育をしていく中で、子どもたちが少しでも頑張ったり努力をしている姿を見逃さずに認め、誉める力を身につけて頂きたい。
- *たとえば外国の楽器等を紹介したり歌を歌えたりするような、幅広い知識。
- *電子オルガンの上手な使用方法
- *劇中の効果音やBGMをえらび、効果的に使用できる能力

質問⑨

私どもの短大における音楽教育で、改善・強化を望まれる点がありましたら、お聞かせ下さい。

- *応用能力のある学生の育成に努力願いたい。
- *劇あそびのバックミュージック、踊り等、劇のイメージにあった選択のあり方。
踊り、ダンス(曲に合った振り付けのあり方)
手遊び(年齢別)
基本的な楽器のリズム打ちの仕方等
- *コミュニケーション能力
- *歌のみならず、ピアノ演奏にも消極的な学生さんが実習にみえることがこれまでよりも多くなったようで残念に思う。実習項目の中に音楽的な活動をひとつでも入れて頂けたらと希望する。
- *音程とリズムが正確に取れるように！
子どもたちは保育者が歌ったとおりに覚えているので。
- *子どもたちと表現豊かに楽しく歌う力
- *楽器が無くても手拍子だったり、またいつでも歌を口ずさんで聞かせられるなど、子どもへの音楽教育はいつでもどこでもできるという考え方も是非指導して頂きたい。
- *わらべうたや昔から歌われている唱歌などは、

今の子にとって新鮮な響きがあるようだ。実習期間中にも、この曲だけはOK!!というように曲を最低1曲はマスターして弾き歌い出来るとよいのではと思います。

- *できないことをすぐ諦めるのではなく、弾けるようになるまで練習しようとする強い気持ちを持てるような精神面での指導もお願いしたい。
- *教本だけでなく一人一人の好きな作曲家など曲を沢山弾けるようにして、また編曲の変った楽譜などを自分で探し弾けるようにしたら自信が持ててよいと思う。同じ曲でもその先生その先生の楽しさを学べるため。
- *今はCDでも楽譜でもいろいろなものがある時代なので、どう活かしていくかの方法を知っていることも必要。
- *ピアノのテクニック以上に、音楽的センスを育ててほしい。
- *各幼稚園でよく歌われている曲を課題に取り入れてほしい。
- *他の短大に比べ、仁短の実習生はしっかりピアノの練習を積んでいると感じる。
- *ピアノ練習の意欲が、他の学習意欲と連動しているように思う。

以上

4. 回答のまとめと授業への反映

現状に即した意見から理想に至るまで、様々な回答を頂くことができた。特にピアノの演奏力に関して具体的なご意見を数多く頂いたのは、大きな収穫であった。本アンケートの主目的たる本学幼児教育学科「器楽Ⅰ」履修規定改訂についての記述の前に、調査結果を包括する。

まず質問①～④の、ピアノの演奏力に関しては、各園ごとのバラツキが大変大きいものの、大筋で求められている要素とそのレベルを把握することができた。選択項目における単純な数による限り、「平易な弾きうたいができて、バイエル100番程度～ソナチネ程度のテクニックがあり、演奏が円滑であること。できれば、新たな曲の習得に時間がかからず、曲のもつ性格を表現できればなお良い」というものである。ここから、高度

な曲を弾きこなすよりも、簡単な曲を「それらしく」演奏する能力が求められていることが分かる。「間違えても止まらないで演奏してほしい」という声も多数あった。

質問⑤～⑦の歌唱と合奏に関することについては割愛する。

より全体的な質問となる⑧と⑨においても、再びピアノに関する回答が多数見られた事から、保育現場におけるピアノの重要性が理解できる。

それでは、「器楽Ⅰ」改訂についての記述に入る。本学「器楽Ⅰ」では、それまでの音楽経験や能力に合わせて、7段階のグレードを設定しており、初心者はグレード1となる。また、当グレードに属する学生がいちばん多い。上級者に対する現場の要望も決して少なくなかったことは承知の上で、まずは初心者への対策が火急の問題であったため、大きな変更はグレード1に限った。

〈旧規定（概要）〉

1年次において、NEW大人のピアノ・レッスン67番まで終了させること。規定の曲まで到達出来なかった場合は「器楽Ⅰ」の単位が認められず、2年次において残りの曲を「器楽Ⅱ」として再履修しなければならない。

〈新規定（概要）〉

1年次において、NEW大人のピアノ・レッスン55番までと、仁愛幼稚園における実習で使用する弾きうたい曲を5曲と、ピアノ曲「黙想」を終了させること。また、2年次の「器楽Ⅱ」において100番まで終了させること。

現在の中高等教育では、読譜を重視していない学校も多く、また高校において音楽を選択しなかった入学生も多い。「NEW大人のピアノ・レッスン」の内容はバイエル教本を主体としているが、楽譜を読むことから始めた学生が、1年間でバイエル105番相当まで進める旧規定は、ピアノ初心者にとって過酷とも言えた。また従来、弾きうたいについては2年次の「器楽Ⅱ」で初めて行っていたが、既に1年次より現場での実習において弾きうたいが必要であることから、「器楽Ⅰ」に弾きうたいを取り入れることとなった。まず一定のピア

ノの技術を身につけてから応用へ、という専門家養成的な考え方を改め、できる限り実践的な課題へとシフトさせている。音楽好きな中学生や高校生が、ギターを手にして1週間で3つの基本コードをマスターし（多くの場合、独学で！）さっそく弾き語りを始める姿勢こそ、参考にすべきだと考えた。

実際、保育現場で使用される多くの歌は、その成り立ちがクラシック音楽よりも、ポピュラー音楽にずっと近い。単純なコードとリズムの上にメロディーが付いており、クラシック音楽には頻出の対位法的書法も、ここでは殆ど見られない。だからこそ、ある1つの歌に対して何種類何十種類もの伴奏譜が存在できる事実にもつながる。逆に、例えばシューベルトの歌曲などにおいては、ピアノ・パートは1種類だけであるし、フレーズや音型の僅かな変更も許されることではない。

従って、今回の履修規定変更は、使用教材こそ変更しないものの、その運用を柔軟に行うことで、これまでの剩りにも専門音楽的な考え方を見直してゆく契機になると考えている。

5. 今後の展望と、残された課題

さて、幼児音楽科目における終極の目標は、技術面においては弾きうたいがスムーズにできることであり、精神面においては子供たちに音楽の楽しさを伝えるとともに、子供たちの園での生活に活力をもたらすことでもある。高度な芸術作品を完璧に仕上げるのではなく、平易な楽曲をたくさんマスターし、場に応じて臨機応変に使い分けられる能力が求められる、いわゆる実用音楽と言ってよい。ところが、このような能力を身につけることは、決して簡単なことではない。なぜなら、ある一つの曲を演奏するにあたり、もしそれが技術的に精一杯であったなら、子供のほうを向いた演奏など期待できぬからである。そこで、まずピアノの演奏技術を徹底的に学び、それを習得した

後に初めて応用すなわち弾きうたいに移るという形が、これまでのやり方であった。もちろん、これはこれで決して間違った方法ではない。確かな技術こそ、どのような状況においても揺るぎのない威力を持つものだからである。しかし、ここには2つの問題がある。

その第一は、ピアノ初心者が楽譜の読み方を覚え、基礎的な音楽理論と基礎的な技術を身につけるまでの期間が1年間しかないことである。平均的な子供がピアノ教室で数年がかりで学ぶことが、わずか1年間に詰め込まれているところに、大きな無理があった。そしてもう一つの問題は、現在使用しているメソッドが、あくまでもクラシック芸術作品の演奏を第一目的としていることである。1音たりとも間違えずに弾かなければならない練習曲と、ある一つのメロディーに幾通りもの伴奏付けが考えられる幼児音楽とでは、音をドレミで読み、演奏にあたって指を動かすこと以外には、関連性が希薄である。メソッドと目的との乖離、これは学習者の目的意識を減殺しかねない。

今回導入の、ピアノの基礎とその応用である弾きうたいとを同時進行させるシステムは、使用教材そのものには変更がないという点において過渡的なものであると言わざるを得ない上、幼児音楽教育のもう一つの重要な側面すなわち子供たちに音楽の楽しさを伝えることや、学生のセンスや音感を養うといった課題に対して、未だ手つかずの状態であることは強く認識している。しかし、少なくとも従来と比べて、実用および実情に即した履修内容に一步近づいたと信じている。

今後は、ピアノの演奏技術的な部分に加え、学術的ではない「生きた理論※」を、「器楽Ⅰ・Ⅱ」の授業の中で習得できるようなカリキュラムを構築してゆくべきだと考えている。

※生きた理論：それを理解することで、演奏に直接役立つような理論。例えばメロディーに和声を付ける方法論なども、その1つである。